

第19回 開運!!



作品募集

オリジナルだるまコンテスト

「日本一のだるま市」として知られる毘沙門天大祭。
今年もオリジナルだるまコンテストを実施し
『だるまのまち富士市』を一層盛り上げていきます。
自由な発想で、楽しいだるま、アートなだるま、あなた
だけのユニークなだるまを作ってみてください!

令和7年(2025年)

☆募集期間: **1月18日(土) ~ 1月26日(日)**

☆募集部門: 大人の部(中学生以上対象)・子どもの部(小学生以下対象)

☆応募要項: 富士市まちの駅中部エリアの各駅で600円で販売している、地元の「鈴川だるま」の白だるまを購入し、自由に彩色や加工をして、本紙裏面下部の応募用紙とともに、下記の宛先へ提出してください。

「鈴川だるま」の白だるまを
600円で購入!
(10号=高さ約14cm)

限定300個



自由に彩色、
加工しよう!
オリジナルなだるま、
アートなだるまに!
(高・幅・奥20cm以内)

☆宛先: コミュニティフ(富士市吉原2-10-20)

☆応募規定: (1) 作品は未発表の自作に限ります。(2) 作品は高さ・幅・奥行とも20cm以内。
(3) 入賞作品の画像使用权は主催者に帰属します。(4) 極度に公序良俗に反する作品は失格。

☆審査と賞: 応募作品は、まちの駅中部エリアの各駅長と、下記の方々による審査により、大賞、準大賞ほかの各賞を決定します。受賞者には賞状および賞品をさしあげます。

【特別審査員】毘沙門天妙法寺住職・高橋堯薫師 / 富士商工会議所会頭・浅見祐司氏 / アトリエパセリ代表・あしざわまさひと氏

☆結果発表: **令和7年1月27日(月)**

☆作品展示: 受賞作品をはじめ、すべての応募作品を令和7年1月28日(火)~2月6日(木)コミュニティフにて展示公開します。

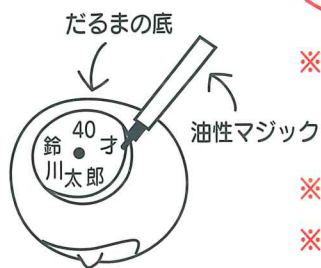
☆お問合せ: コミュニティフ ☎0545-57-1221

<応募の際の注意事項> ※応募用紙はこの裏面です。

※ 応募作品を返却希望の方は、受賞の有無にかかわらず、令和7年2月7日(金)~11日(祝)の間に、引き取り用紙をお持ちの上、展示会場のコミュニティフにお越しください。受賞者には、その際に賞品をお渡しします。

※ 応募の際には、必ず油性マジックで、だるまの底に氏名と年齢を記入してください。

※ 記入された個人情報に関しては、本コンテストの目的以外には使用しません。電話番号は日中に連絡のつく番号をご記入ください。



主催: 富士市まちの駅ネットワーク・富士商工会議所

後援: 富士市・富士市教育委員会・全日本だるま研究会・一般社団法人日本人形玩具学会 / 協力: 紙っと!プロジェクト

あの！鑑定番組でお馴染みで！日本人形文化研究所所長の！

はやしなおてる

林直輝氏の『だるまむかし話』



日本一の富士山のふもとに日本一のだるま市！

真っ赤な衣とヒゲづらで親しまれている「だるま」は、禅宗の始祖である達磨大師と、何度倒しても起き上がる張子のおもちゃを組み合わせた、日本独自の縁起物です。富士市では毎年、旧暦の1月7・8・9日に日本一の規模を誇るだるま市「毘沙門天大祭」が開催されます。

だるまの歴史

中国で明代（1368～1644）に創り出されたという「不倒翁」（ふとうおう）は、「倒れない翁」の文字通り、おじいさんの姿をした起き上がり玩具で、不老長寿を象徴したものでした。これが日本へ伝わったのは室町時代後半といわれ、日本では翁を子どもの姿に作り変え、「起き上がり小法師」と呼ばれて普及しました。江戸時代中期、沼津出身の白隠禅師（1685～1768）によって禅宗の教えが庶民にも分かりやすく説かれると、達磨大師の存在もまた身近なものとなり、江戸（現在の東京）で起き上がり小法師を応用した張子の「起き上がり達磨」が作られるようになったのです。

面壁九年の座禅姿を表した張子だるまは、その赤い衣の色から、当時非常に恐れられた疱瘡（ほうそう＝天然痘）除けに靈験あらたかとされ、また蚕の繭に似た形と起き上がる姿から養蚕の縁起物ともなりました（蚕が休眠から目覚めて繭をつくることを「起き上がる」という）。さらに、白目のままのだるまに願掛けして目を入れる風習がおこると、毎年新しいだるまを買い替えて、さまざまな祈願を託すようになり、ついにだるまは日本の縁起物のトップスターとなったのです。

毘沙門天のだるま市



静岡県は全国的にみてもだるまの製作が盛んな地域です。それは、県内各地で古くから「だるま市」が開かれてきたことと関係しています。そのなかで最大規模のだるま市が富士市今井の香久山妙法寺の「毘沙門天大祭」で、群馬県高崎市のだるま市、東京都調布市深大寺のだるま市とともに、「日本三大だるま市」のひとつに数えられるばかりでなく、じつはその規模（露店の数、人出、だるまの種類等）において、「日本一のだるま市」と称されているのです。

毘沙門天のだるま市は明治25年（1892）頃、静岡市葵区梅屋町の張子玩具店「澤屋」二代目の杉本伝之助氏（1853～1919）が、毘沙門天大祭で子ども向きの張子玩具などとともに試みにだるまを売ってみたところ、それまで「たんきり飴」のほかには目ぼしい土産品がなかったこともあり、またたく間に売り切れてしまったことに始まると伝えられています。

あまりに良く売れたことから、地元吉原の杉山市松氏（1877?～1953）は澤屋のだるまを大量に仕入れて売り出し、さらに子息の敏雄氏は澤屋に弟子入りして、吉原でだるまを作るようになりました。また、同じく澤屋に学んだ「小楠ダルマ店」や、澤屋の孫弟子にあたる影島金吾氏らも市内でだるま作りに励み、だるま市は一層盛大になっていったのです。

毘沙門天のだるま市を大きく発展させた陰の功労者ともいえる「杉山ダルマ店」は、のちに富士市依田原から富士宮市へ工房を移しましたが、今も毎年、たくさんのだるまを作り、日本一のだるま市を支えています。

(キリトル)

(キリトル)

■第19回開運！オリジナルだるまコンテスト作品応募用紙■ No. _____

作品名			大人の部	・	子どもの部
ふりがな			年齢		
氏名			才		
住所	〒				
電話番号			作品の返却を	希望する	・ 希望しない

(キリトル)

■引き取り用紙■

母鑑
氏名

令和7年2月7日（金）～11日（祝）の間に、コミュニティへ、この引き取り用紙を持って、作品を取りに来てください。